

梅下村塾

④



塾長 梅内 拓生

平成23年3月11日の東日本大震災は自然環境、社会環境、さらには精神にまで及ぶ深刻な被害をもたらしました。この深刻な状況の中で、これに打ち勝つことをめざして、大船渡第一中

学校の文化祭が行われました。中学生たちはさまざまな思いを短歌と俳句に詠みました。この思いを科学と心と魂のつながり、さらには地域と世界の文化とのつながりをもとめて平成24年5月12日、13日に気仙沼市と大船渡市で開催される「森と水と命の惑星」国際会議に出席する、パネラーたちの思いとつなげ、そして重ねてみました。パネラーたち

は、東日本大震災と復興をまさに地球レベルの問題として受け止め、時代と地域を越え、政治、経済、文化の領域にまたがる科学と心と魂のつながりを話し合う場を持つこ

との重要性を深く認識し、これが「森と水と命の惑星」国際会議で話されることを強く期待しているからであります。

気と絆

「全校が気持ちを固めた一中学祭港に活気を地元に元気を」

「我が校の祭りに込めた熱き気が気仙の野山を赤く染めし」

「合唱で冷たい心温まる」
「声響け雨音よりも高らかに」

「文化祭見えない絆身に付ける」
「響く声きれいな和音釘づけだ」

中国大連市から住田町の森林産業気仙プレカッターで中国人のリーダーとして働いている温秀輝氏は森林保全と森林産業との調和の大切なことを論語の「朋、遠方より来るあり、亦樂しからずや」

科学と心と魂のつながり

千葉淳氏と、

た。

宗教はその根底では世界に通じ合うという京都大徳寺瑞法院住職の前田昌道氏との間で、心をこめた「送葬」は新しい命の誕生につながる話が期待されています。

「気と絆」は国と歴史を越えて、心と魂に触れてきます。

送葬

「ファイナルと同時に聞こえる冬の声」

まさにこの「森と水と命の惑星」国際会議で話される循環する自然エネルギー、生命エネルギーと「心と魂」は永遠につながるものと思われれます。